

授業科目名	身体表現論	担当教員	児玉 北斗 岡元 ひかる
必修の区分	選択		
単位数	2単位		
授業の方法	講義		
開講年次	2年第3クォーター		
講義内容	この授業の目的は、身体表現の多様性を認識するとともに、その表現性がどのようにして生じているのか／生じていないのかを知ることにあります。授業の内容は、講師の選んだ身体表現の分野やテーマをもとに、書物や写真、映像などを通じて、そのことを考えてゆくものです。		
到達目標	授業で取り扱う身体表現の表現性が、どのような技芸や理念や仕組みによって生じているのかを、具体的に説明することができる。		
授業計画	<p>2024年度は次のような身体表現の分野やテーマを用意しています</p> <p>岡元：踊りをめぐるパラドクスー政治・知覚・文化</p> <p>児玉：パフォーマンスにおける自由と不自由の二重性</p> <p>1：イントロダクション【児玉・岡元】</p> <p>2：日常におけるパフォーマンス【児玉】</p> <p>3：儀礼とリミナリティ【児玉】</p> <p>4：プレイ、ルール、ゲーム【児玉】</p> <p>5：パフォーマンスティヴィティ：言語行為からジェンダーまで【児玉】</p> <p>6：行動の復元【児玉】</p> <p>7：権力と身体【岡元】</p> <p>8：環境と行為【岡元】</p> <p>9：踊りのテクニックと身体図式【岡元】</p> <p>10：踊りの言語化と本質主義【岡元】</p> <p>11：踊りと潜勢力【岡元】</p> <p>12：復習と到達度チェック（授業内レポート）、質疑応答【児玉・岡元】</p>		
事前・事後学習	<p>岡元：配布資料のチェックや参考文献の部分的読解など、適宜指示します</p> <p>児玉：授業内で触れた考え方を基に、日常生活、芸術・観光との関連について考察を試みてリフレクションに記入する（岡元、児玉ともに事前・事後学習として週2時間程度）</p>		
テキスト	特に指定しません		
参考文献	適宜紹介します		

成績評価の基準	平常点 60%：毎回の授業中の様子やリフレクションの質をもとに判定 提出物 40%：授業内レポート
履修上の注意 履修要件	「パフォーマンスアート概論」を履修していることが望ましい
実践的教育	該当しない。
備考欄	この授業は岡元と児玉の教員 2 名によるオムニバスタイプのものです (前半の 6 回が児玉、後半の 6 回が岡元の予定)